

徳島ペンクラブ通信

発行

徳島ペンクラブ

徳島市東沖洲2丁目1-13

徳島県教育印刷(株)内

TEL 088-664-6776

177号

平成29. 6. 27

29年度定期総会

創立から
半世紀

拍手で竹内会長の続投を承認

41人出席 新理事に高木氏、会計は小川氏

徳島ペンクラブの平成29年度定期総会は、5月13日午後4時から、ホテル・グランドパレスであった。ペンクラブが昭和42年11月にうぶ声をあげてから、今年でちょうど半世紀になる。41人が出席。竹内会長のあいさつ(別項)に続いて、同会長を議長に議事を進め、28年度の事業報告、決算報告並びに監査報告があり、いずれも承認された。

徳島ペンクラブの平成29年度定期総会
める予定でしたが、今年は記念行事のこともあり引き続き務めさせていただきたい」旨の発言があり、拍手で承認された。また、昨年理事を辞任された杉田卓次さんに代わり、新しく高木純さんを理事に、さらに会計理事だった上窪則子さんの会計担当の辞任に伴い、代わって小川公三理事を会計担当とする人事案が提示され、いずれも拍手で承認された。最後に、29年度の事業計画、同収支予算案の提案があり、原案通り承認された。

新年度の事業計画では、今年がペンクラブ創立

この後役員改選(2年ごと)に移り、まず竹内会長から「当初は2期4年で辞

福島理事が記念講演



「台湾の俳句」と題して話す福島せいぎさん



98歳・木村義次さんによる三本締めでフィナーレ

50周年となることから、機関誌「ペンクラブ選集」PART35を、50周年記念号として10月に発行すること。記念号の発行と併行して、記念式典を10月9日(祝日)に阿波観光ホテルで、とくしま随筆大賞の授賞式を兼ねて行うこと。さらに、県民文化祭参加イベントとして「50周年の歩み展」を10月20日から3日間、県立文学書道館で開催することなどが報告された。

グランドパレス

恒例となつている春秋の文学旅行、昨年からは春は県内の文学散歩に衣替えして実施されているが、今春も同じ4月29日（祝日）22人が参加し、眉山の東側「モラエスの歩いた道」を楽しく散策したことも紹介された。この後質疑があり、会員の増加にもっと知恵を絞つてはどうか、「選集」を市町村の図書館にも置いてもらつてはどうか、などの意見があり、理事会で検討することを約束した。総会に引き続いて、これも恒例となつた会員による講演があり、

会長あいさつ

竹内菊世

総会は年一度の最も大きな行事です。ご出席くださいました皆さま、まことにありがとうございます。

今年は、このペンクラブが創設されて50年になりますので、「50周年記念総会」と銘打っております。その他、記念の行事をいろいろと考えておりますので、また、ご協力ください。

さて、先だつて行われました、フランス大統領選で、自由と民主主義を唱えが当選しました。領のかざす「希ンスは国を賭けペンクラブの



る若きマクロン氏
史上最年少の大統
望の光」に、フラ
たのです。

高齢化現象は止め

ようなない事実です。マクロン氏のような若き救世主が現れてくれないかなと望んでも、そういう奇跡は起こらないでしょう。だとすれば、我々高齢者の手で運営していくしかありません。老人のお楽しみ会、老人の手慰みにならないよう、しっかりとした運営をして、これまで先輩が築いて来られた歴史、伝統、社会的地位を維持していかなければと思っておりますが、会員の皆さまのご協力がなければ何も実行することはできません。どうぞご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

今回は万福寺住職で、なんと俳句会代表の福島せいぎさんが「台湾の俳句」と題して話した。福島さんは、台湾の俳句会の重鎮を引合いに、何十年にわたつての文芸人との付き合いを通じて得た、同国の「俳句事情」を得意の話術で紹介し、あつという間の1時間だった。

最後は、席を別室に移しての懇親会。この日出席の新入会員、初参加者の自己紹介の後は、アルコールを酌み交わしながら、各テ



会場を移して和やかに懇談



初参加の高木純、山形靖子、渡邊恵子、東條孝の皆さん（右から順に）

ブルで大いに盛り上がり、この日予定されていたカラオケタイムは次回に預け。ファイナーレは、この日もお元気に出席の98歳、木村義次さんの三本締めで散会となつた。

徳島ペンクラブ2017年度理事・役員

（アイウエオ順 太字は新任、敬称略）

参与 上野隆、岸積、木村喜美子▽会長 蔭山美紗子、鈴木綾子、田上倉平、丁山俊彦、西池冬扇▽理事 安曇統太、上窪青樹、上窪則子、木村英昭、高木純、竹内紘子、辻本一英、福島誠浄、船越淑子、萬宮千鶴子、山口久雄▽会計 小川公三
▽監事 新開英毅、二橋満璃▽事務局 桂ゆたか、正木孝枝、山崎純世

平成28年度 徳島ペンクラブ事業報告

事業名	内 容	期 日
ペンクラブ選集	PART34号発刊 特集 海野十三の世界 ペンクラブ賞 野上恵子さん	12月末 発行発送 表彰式(第4回研修会) 29年3月12日
ペンクラブ通信	会員への通知、ニュース等 年に数回適時発行	4月3日、6月30日 9月13日、3月30日
第17回 とくしま随筆大賞	審査員 依岡隆児 徳島大学総合科学部教授 撫養佳孝 徳島新聞生活文化部 竹内菊世 徳島ペンクラブ会長 (大賞、準大賞は作品をペンクラブ選集に掲載) 大賞 竹内 晴美 「モッコウバラが咲いた」 準大賞 手束 雅夫 「頭頂記」 鴻野 福恵 「我が人生に乾杯」 佳作 山形 靖子 「仙人となった雪子先生」 坪井壽美代 「ミミズと私」 崎本 久枝 「ハーベスト」 奨励賞 藤井 春樹 「祖父のこと」	表彰式 11月6日(日)10時30分 阿波観光ホテルにて 終了後懇親会
秋の文学旅行	大阪堺市(千利休・与謝野晶子) 兵庫県芦屋市(谷崎潤一郎)など	11月20日
春の文学散歩	眉山の北側、南佐古の旧道を歩く	4月29日(毎年固定)
研修会	講演とペンクラブ賞授賞式、懇親会 講演 浅香寿穂氏「露天の口上・啖呵売」	29年3月12日 阿波観光ホテルにて 終了後懇親会
理事・執行部会	毎月第1土曜に開催(会場の都合で変更あり) その他、必要に応じて理事会・執行部会を招集	基本的に定例 毎月第一土曜午前10時 から文学書道館にて
主催事業 特別事業	平成28年度徳島県民文化祭分野別フェスティバル事業 テーマ「日本SFの父 海野十三」 講演 小西昌幸氏(海野十三の会) 演題「海野十三研究最前線」 講談 旭堂南湖氏(上方講談師) 演題「蠅男」他	10月16日 文学書道館にて
その他	50周年記念誌発刊準備開始(平成29年10月発刊予定) 編集長 田上副会長 副編集長 鈴木副会長	編集委員 全理事 必要に応じて編集会議
協力事業	三好市 高校文芸誌賞への協力(選考委員など) 野上彰の会「アカシア忌」	11月5日

平成28年度 収支決算

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

A 収入総額	2,122,748円
B 支出総額	1,918,304円
C 差引額	204,444円 (次年度へ繰越)

A 収入の部

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
会 費 収 入	705,000	740,000	平成28年度会費 5,000円×141人=705,000円
負 担 金 収 入	659,000	660,000	ペンクラブ選集 part34掲載料 499,000円 2頁 7,000円×55人=385,000円 3頁 9,000円×2人=18,000円 4頁 11,000円×6人=66,000円 6頁 15,000円×2人=30,000円 会合出席者負担金 総会 4,000円×40人=160,000円
補 助 金 収 入	250,000	250,000	三好市(富士正晴同人雑誌賞審査) 150,000円 徳島新聞社文化助成金 100,000円
寄 付 金 収 入	7,279	3,000	秋の文学旅行寄付金 7,279円
雑 収 入	64,780	20,111	ペンクラブ選集売上代金 64,775円 利息 5円
未 収 金 収 納	0	5,000	0円
前年度繰越金	436,689	436,689	
計	2,122,748	2,114,800	

B 支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額	内 訳
事 業 費	1,078,168	1,100,000	ペンクラブ選集印刷代 787,600円 ペンクラブ通信印刷費 114,480円 徳島随筆大賞関係 156,621円 研修会その他 19,467円
通 信 費	253,822	210,000	事務局 24,359円 選集34号発送費 63,072円 ペンクラブ通信発送費 39,116円 その他通信費 127,275円
会 議 費	183,678	260,000	理事会・役員会他 24,678円 総会 159,000円
諸 会 費	9,000	10,000	徳島市文化協会会費等 9,000円
慶 弔 費	14,580	20,000	山下顧問告別式生花 14,580円
事 務 費	10,958	10,000	事務用品(インク・用紙他) 10,958円
特別事業費	350,405	350,000	県民文化祭参加事業「海野十三」 272,216円 50周年記念事業準備 54,905円 富士正晴同人雑誌賞表彰式 23,284円
雑 費	17,693	40,000	振込手数料等 17,693円
予 備 費	0	144,800	0円
計	1,918,304	2,144,800	

平成28年度の収支決算について監査の結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成29年4月11日

会計監査 新聞英毅 (新)

会計監査 二橋満瑠 (橋)

平成29年度 徳島ペンクラブ事業計画

事業名	内 容	期 日
50周年関連行事 1)ペンクラブ選集 (兼・50周年記念誌)	年1回刊行しているもので、今年度はPART35号 ペンクラブ賞1名・次点数名を選出	6月末各原稿締め切り 10月発行発送予定 ペンクラブ賞投票 表彰式は未定
2)50周年記念式典	随筆大賞授賞式を兼ねる(詳細は理事会にて検討)	10月9日(月・祝日) 阿波観光ホテルにて
3)県民文化祭 「50周年の歩み 展」(仮)		10月20日(金) ～22日(日) 文学書道館にて
ペンクラブ通信	会員への通知、ニュース等	年数回適時発行
とくしま随筆大賞	第18回 審査員 徳島大学教授 依岡隆児氏 徳島新聞 生活文化部長 疋田耕資氏 竹内会長 (大賞、準大賞は作品をペンクラブ選集に掲載)	5月末〆切 審査6月～8月予定 ※すでに実施中 表彰式は記念式典内で
文学散歩	春 第2回文学散歩 眉山の東側を散策 「モラエスの歩いた道」	4月29日(毎年固定)
文学旅行	秋 未定	
研修、講演	講演とペンクラブ賞授賞式、懇親会などを兼ねて開催	来春3月予定
理事・執行部会	毎月第1土曜に開催(会場の都合で変更あり) その他、必要に応じて理事会・執行部会を招集	基本的に定例毎月第1 土曜午前10時から文学 書道館にて
主催事業	平成29年度徳島県民文化祭分野別フェスティバルテーマ 「徳島ペンクラブ50年の歩み」(仮称)	理事会で内容等を検討中 日程は上記 各役員・全会員参加協 力で仕上げていく
協力事業	理事会で協議し、必要と認めた依頼事業 (文学関係)の支援・後援・共催事業など	
	三好市 高校文芸誌賞への協力(選考委員など)	
	野上彰の会「没後50周年記念 アカシア祭」	5月20日(土) 13時30分～ シビックセンターホール
	徳島現代詩協会 1)創立30周年記念講演「パウンドのイマジズム」 2)中四国詩人会・徳島大会(30周年記念展示併催)	7月30日(日)14時～ 文学書道館 9月30日(土)13時予定 阿波観光ホテル

平成29年度 収支予算

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

A 収入総額	2,779,450円
B 支出総額	2,779,450円
C 差引額	0円

A 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
会 費 収 入	700,000	740,000	平成29年度会費 5,000円×140人 = 700,000円
負 担 金 収 入	800,000	660,000	50周年記念誌（選集 part35）掲載料 500,000円 会合出席者負担金 総会 6,000円×50人 = 300,000円
補 助 金 収 入	500,000	250,000	県民文化祭助成金 250,000円 50周年記念事業助成金 250,000円
寄 付 金 収 入	300,000	3,000	各種寄付金他（50周年広告料等） 300,000円
雑 収 入	20,006	20,111	ペンクラブ選集等売上代金 20,000円 利息 6円
未 収 金 収 納	255,000	5,000	前年度会費 1名 5,000円 県民文化祭助成金28年分 250,000円
前年度繰越金	204,444	436,689	
計	2,779,450	2,114,800	

B 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	内 訳
事 業 費	1,500,000	1,100,000	50周年記念選集 part35印刷代 1,200,000円 ペンクラブ通信印刷代 100,000円 徳島随筆大賞賞金等 150,000円 講演会・研修会 50,000円
通 信 費	300,000	210,000	事務局 50,000円 総会案内・選集・通信送料等 250,000円
会 議 費	400,000	260,000	理事会・役員会等 100,000円 総会 300,000円
諸 会 費	10,000	10,000	徳島市文化協会会費等
慶 弔 費	20,000	20,000	
事 務 費	10,000	10,000	事務用品代他
特別事業費	350,000	350,000	県民文化祭参加事業「50周年記念」 350,000円
雑 費	40,000	40,000	振込手数料等
予 備 費	149,450	144,800	
計	2,779,450	2,144,800	

※各科目間の流用を認める

22人 歴史・文化の宝庫を訪ねる

第2回 春の文学散歩

4月29日

潮音寺から勢見山墓所まで

春の文学散歩、2回目となる今回は昨年と同じ祝日の4月29日、22人が参加し、絶好のウォーキング日和の中、新町から眉山の麓「モラエスの歩いた道」を南進し、二軒屋駅前までの山沿いコースで実施した。

午前10時、阿波踊り会館前に集合。まず、コース設定を始め、ガイド役も務めていただく、文学散歩担当の丁山俊彦さんから、この日の概要説明を聞いた後、モラエスのレリーフ胸像の前で記念写真を撮って、出発。

モラエスやおヨネ、コハルの眠る潮音寺を皮切りに、天神社境内の田中松亭歌碑、新町小前では、坂東文夫作のモラエス胸像やオブジェ「なかよし」、書家・貫名崧翁（ぬきな・すうおう）生誕地碑など、ジグザグコースを、丁山さんの説明を聞きながらルンルン気分で見回った。



モラエスの寓居跡で「在りし日」をしのぶ

伊賀町では、モラエス通りと呼ばれ、当時の面影が色濃く残る狭い通りの途中、モラエス旧居跡などに立ち寄り、文人がよく泊まったという福本楼の旅館



十数年前の引越から写真の整理ができなくなり、大きな段ボール箱に写真を仕舞い込んだままにしていた。

新しい写真を撮っても、その箱に入れる。アルバムが途切れたままになっているから、続きの写真も整理できな。いつかまとめて整理しようと思っっているうちに、箱の中には十数年分の写真がたまっていた。あふれそうになっていった。そろそろ整理しないと……。写真を箱に入れる度に思うのだが、その写真の多さに閉口して、簡単には手が付けられない。

写真

の中に私を引きずり込む。

一番の変化は孫達の成長だ。生まれたばかりの孫達の写真。食べ初め。雛祭り。保育園に通う姿。七五三。小学校の入学式。運動会。遠足。成長する姿が微笑みを誘う。

私といえば、年々、確実に年を重ねて老いを感じる。髪の色が白くなり、顔には皺が増え、体重の増加が如実に現れている。こんな自分の姿を見たくなかったのかもしれない。

孫達に「おばあちゃん」と呼ばれるようになり、すっかり容顔の変わった私に、「誰かと入れ替わったのか？」と、夫が聞く。

「自分だって入れ替わっているくせに」と、私も呟く。

写真の中の時は、懐かしい事だけでなく、悲しい事や辛かった事も思い出させる。家族が減った分だけ新しい家族が増えた。今では夫が我が家の最年長になっている。

十数年ではカラー写真はセピア色に変わらない。でもその中に私達家族の時間の変化を色あせることなく残していた。

(仁木陽子)

跡などを巡って、最後はなみだ町から、城南町の焼香庵跡墓地を訪ねた。ここには、東洲斎写楽の錦絵に描かれた「勢見山」の墓など、江戸相撲で活躍した力士の墓が、きれいに清掃されて残されていた。

2時間たっぷり、二軒屋駅前で昼食を取り、解散した。それにしても、眉山の東側山麓沿いにこれほどの「文化」「歴史」が残されているとは驚きであった。(詳細は10月発行の選集に掲載)



没後50年 甦る野上彰

「アカシア祭に230人」

シビックセンター

徳島ペンクラブ協賛の「野上彰没後50年記念アカシア祭」(野上彰の会主催)が、5月20日、徳島市シビックセンターホールであった。230人余が会場を埋め、徳島市出身の詩人・野上彰(1909)



①野上彰作詞「落葉松」を披露する徳島混声合唱団の皆さん②満席の会場も一緒に
③藤本ひかりさん(右端)ら御子息5人の皆さんも一堂に

67年)が脚本を手掛けたラジオドラマ「雁の曲」など、彼の手になる詩、作詞、訳詩、小学校歌など、今に残る数々の名作が朗読、合唱などで披露され、大きな感動を呼んでいた。

中でも、フィナーレを飾った「雁の曲」は、幕末、箏の名家に生まれた主人公が自由に目覚めるストーリー。長男・藤本草さんの脚色、演出で、朗読サロン「さざなみ」主宰の住友美代子さんが、情感豊かに朗読し、会場からひととき大きな拍手が送られた。

この日は、草さんはじめ野上彰ファミリーが大勢、遠路駆けつけ、幕間にご子息の藤本ひかり・草・成・豊彦・国彦の5人の皆さんが壇上で紹介された。



野上彰脚本「雁の曲」を
朗読する住友美代子さん

野上彰の会(竹内菊世会長)は、徳島県が生んだ稀有な詩人野上彰を顕彰しようと、2014年8月に発足した。この会は野上彰を愛する人なら誰でも参加できる。事務局は、徳島市寺島本町西1丁目、ポップポ街2階「丁字堂」内。
TEL 090-4508-0538。

編集後記

忙中閑ありー。5月中旬過ぎ、久しぶりに東京に行つて来た。大学の同期会(クラス会)に出席するためである。その前日、横浜に住む友人からの夕食のお誘いを断り、有楽町や日比谷公園周辺を散策。夜は東京ドームで野球観戦を楽しんだ。小田急線、中央線、山手線の電車も利用した。それにしても、なんと人の多いことか。どこへ行っても人の波。東京一極集中を実感した。また、電車内の乗客の大半が黙々とスマホに視線を落としている様は、異様としか思えない。人口減が加速する我が徳島だが、80歳の大台を目前にした身にとっては、のどかな環境で老後を過ごせる幸せを感じている。(倉)